

瀬戸市立小中学校の適正規模・適正配置及び小中一貫校（一貫教育）

Q&A

本市小中学校の適正規模・適正配置及び小中一貫校（小中一貫教育）に関して、これまでに開催した意見交換会や地区協議会（自治会・PTA・公民館関係者などによる自主的なまちづくり検討組織）をはじめ、5地区の保護者を対象としたアンケート調査（平成28年11月実施）などで寄せられた主なご質問やご意見と、現時点におけるその回答をまとめました。ご参考にさせていただければ幸いです。

なお、今後も引き続き、保護者をはじめ、地域の方々、関係者との協議を重ね、詳細が決まったものについては、随時、回答を加筆・修正することがありますので、予めご承知おきください。

瀬戸市教育委員会



【Q&A 項目】

1	適正規模・適正配置	1
2	小中一貫教育	2
3	教育の質の向上	3
4	小中一貫校	3
5	立地	6
6	通学（バス）	7
7	子どもたちや保護者への配慮	7
8	地域とともにある学校づくり	8
9	安心して安全な学校づくり	9
10	隣接学校選択制度	9
11	学校跡地利活用	9
12	情報公開	10
13	今後の進め方	10



1 適正規模・適正配置

(Q) なぜ適正規模・適正配置を行うのか

(A) 本市では、第2次瀬戸市教育アクションプランの目指す子どもの姿として「自ら考え、学び、生き抜く力」を育むこととしています。そのためには、子どもたちは一定の集団の中で、多くの友だちや大人と接し、様々な体験をすることで、豊かな人間性を身につけるとともに、自主性や社会性を育む必要があると考えます。子どもたちの笑顔を増やし、子どもたちの未来に向けた“新しい瀬戸の教育”を創造していきます。

(Q) 小中学校の適正規模とはどの程度か

(A) 法令上、学校規模の標準は、小中学校ともに「12学級以上18学級以下」とされています。ただし、「地域の実態その他により特別な事情があるときは、この限りではない。」とされており、本市におきましても、地理的条件や地域の状況などを考慮して適正規模の確保に努めてまいります。

(Q) 小規模校にも良さがあるのではないか

(A) 小規模校では、子どもたち一人ひとりに目が届くとともに、子どもたち同士の絆が深まりやすいなどの良い面はありますが、「クラス替えができず、人間関係が固定化する」「部活動の種類が限定される」「運動会や音楽会など集団活動・行事の実施に制約が生じる」などの課題があると考えています。

(Q) にじの丘学園の規模はどのくらいか

(A) 今回の小中一貫校の規模は、各学年3クラス程度を想定しており、子どもたちがいきいきと活動するとともに、教員がきめ細かい指導を実践するためには、最適な規模であると考えています。現在の小規模校の良い面を継承しながら、小中一貫校を運営していきたいと考えています。

(Q) この計画のこれまでの経緯を教えてください

(A) 適正規模・適正配置は、本市の教育行政において、長年の課題となってきました。児童生徒数がさらに減少する中、平成26年には瀬戸市小中学校PTA連絡協議会から、適正配置及び隣接学校選択制に関する要望書をいただき、また、市民からも同様の意見が多数あったことなどから、平成28年3月策定の「第2次瀬戸市教育アクションプラン」において、適正規模・適正配置を基本施策の一つとして明確に位置づけ、本格的な取組を始めたものです。

2 小中一貫教育

(Q) 小中一貫教育とはどんな制度か

(A) 本市の小中一貫教育は、地域の力を基盤とし、9年間を見通して子どもを育てるものであり、これまで取り組んできた小中連携の考え方をさらに発展させるものです。今後は、市内すべての中学校区において、小中学校の9年間の義務教育を連続性・系統性に配慮した学習指導を充実し、個々に応じた指導や成長を見守ります。

(Q) 本市が目指す小中一貫教育とは何か

(A) 本市で学ぶ子どもたちには、「自ら考え、学び、生き抜く力」を身につけてもらいたいと考えています。そのためには、連続性・系統性をもたせながら、地域の方々とともに義務教育の9年間の成長を多くの大人が見守り、支え合う教育環境づくりが必要であると考えています。

(Q) これまでの小学校、中学校の課題は何か

(A) これまでの義務教育においては、小中学校の教員間において、指導内容や指導方法の違い、児童生徒を理解するための情報交換や共通理解の不足など、小学校と中学校の間で指導が途切れることが課題となっています。

(Q) 小中一貫教育は、具体的に何をするのか

(A) 小中学校の9年間を一貫した教育方針のもと指導していくこととなります。例えば、小学校高学年から専門性の高い教科について、一部教科担任制を取り入れることをはじめ、小中学校の教員が一緒になり、チーム・ティーチングによる授業を行うなど、小学生から中学生への緩やかなステップアップとなるよう取り組みます。

また、児童生徒が交流することで、小学生が中学生への憧れをもつとともに、中学生には自覚や自尊感情が生まれることが期待できます。

(Q) 小中一貫教育のカリキュラムや教育方針はどのようになるのか

(A) 義務教育9年間を見通した学習指導を行うために、各教科・領域において連続性・系統性・横断性に配慮した教育課程を作成します。その中で、主体的・対話的で深い学びができる教育活動を展開します。

(Q) 小学6年生は、今まで最高学年としてリーダーシップを発揮できたが

(A) リーダーシップの育成には、学年の区分を生かして行事や取組を考え、それぞれの段階においてリーダー体験を積み重ねることができるよう工夫していきます。

(Q) 中学校入学は、心機一転の機会と考えるがどうか

(A) 本市が推進する小中一貫教育において、節目としての中学校入学は大切な時期だと認識しています。子どもたちにとって、必要なステップアップの機会を残しながら、少しでも緩やかにしようとするものです。

3 教育の質の向上

(Q) まずは、教育の質を向上させることが優先ではないのか

(A) 義務教育 9 年間を見通した連続性・系統性・横断性に配慮した教育課程の展開が、教育の質の向上につながると考えています。また、小中学校の教員による相互の授業参観や合同研修会を通して、互いの指導内容や指導方法などに関する理解を深めることで、教員の指導力を高め、さらなる教育の質の向上を目指します。



4 小中一貫校

(Q) 小中一貫校になると何が良くなるのか

(A) 小中一貫校では、9 年間を見通した目標と一貫した教育課程のもと、小学校から中学校への円滑な接続と児童生徒の異学年交流などにより、密接な人間関係を作ることができ、その結果、いじめ・不登校の減少につながることが期待されます。また、教員同士の連携による教員の資質向上が図られます。

(Q) 小中一貫校では、どのような教育に取り組むのか

(A) 小中一貫校では、義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、指導内容や指導体制などの工夫により、小中学校の円滑な接続を図ります。その中で、基礎基本の定着を保証し、応用力・対応力を身に付けさせることで「協働型課題解決能力」の育成を目指します。また、子どもたち同士の交流や教職員などの連携や協働に重点を置きながら、グローバルな人材を育成するとともに、郷土学習、キャリア教育、環境教育など、地域と学校が協働した取組を推進していきます。子どもたちの未来のために、瀬戸らしい教育を創造し、魅力ある学校づくりに取り組みます。



(Q) 統合前に合同授業や合同部活動は実施しているのか

(A) 5地区の小中学校においては、各学校における現在の教育活動を大切にしながら、合同授業や合同行事などを行っています。例えば、小学校では、合同での道徳の授業、遠足、野外活動を行っています。また、中学校でも、開校時に一緒に学校生活を送ることになる生徒が、不安なく過ごせるよう、合同行事や合同部活動などを行っています。

(Q) 部活動はどのようになるのか

(A) 令和元年度末の時点で祖東中学校、本山中学校で活動を行っている部活動については、にじの丘学園でも継続して活動を行います。部活動のあり方、新たな部活動の開設、小学生が行う活動については、関係機関と意見交換をしながら、令和元年中に方向性をお知らせいたします。

(Q) P T A活動はどのようになるのか

(A) 令和元年6月に、7校の現P T A役員が組織等を含め活動について検討する準備委員会を立ち上げ、開校に向けての準備を進めています。

(Q) 学校行事はどのようになるのか

(A) これまでも各校で行われてきた学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深めていけるようにします。その中でも、小中一貫校の特性を生かし、1年生から9年生の全ての学年が参加したり、地域の方々と協働したりするような、多様な人たちと関わる事ができる学校行事も実施していく予定です。

(Q) モアスクールは設置されるのか

(A) おひさま児童クラブ・たいよう児童クラブは、当面、現在の場所をそのまま使用し、将来的に深川小跡地エリアへの移転を検討します。道泉小学校児童クラブについては、現在のまま道泉小学校の中に残す可能性も含め、道泉地区内で開設を検討します。

また現在、祖母懐小学校・道泉小学校・古瀬戸小学校で開設している放課後学級については、にじの丘学園内に現在の5校（深川・祖母懐・道泉・東明・古瀬戸）の児童がご利用いただける規模の放課後学級を開設いたします。

(Q) 小学生と中学生では体格の差が大きく危険ではないか

(A) 小学生と中学生の体格の差については、運動スペースの仕切りやプールの水深などに充分配慮する必要があると考えています。逆に、中学生が小学校低学年に配慮する姿が見られるようになる面などが期待できます。

(Q) 校名や校歌などはいつ頃、どのようにして決まるのか

(A) 公募によりにたくさんの応募をいただいた中から、校名については「瀬戸市立にじの丘小学校」、「瀬戸市立にじの丘中学校」に決定しました。校章についても校章デザイン投票の結果、最も多くの票を得た2点のデザインの要を組み合わせ、下の校章デザインとしました。校歌についても今年度秋には皆様にお披露目できるよう準備を進めています。



(Q) 制服や体操服等はどうなるのか

(A) 3月に実施した制服・体操服デザイン投票をもとに、下のように決定しました。夏服やその他着用のルールを決定した後、秋ごろから販売を開始する予定です。なお、開校から数年間は、現在の小中学校で使用している制服、体操服、シューズ類等を使用できることとしています。また、制服の着用は7年生（中学1年生）からとなります。

■制服

②落ち着いた雰囲気万人に好かれるスタイル

■体操服

③ブルー×プレミアムネイビー



(Q) 特別支援教育に対する考え方を教えてほしい

(A) 現在、5地区の小中学校において行われている特別支援教育の内容を継承するとともに、小中一貫校ならではの継続した支援が行われるようにしていきます。特別支援学級においては、小中学校が同じ敷地内にあることで、小学校・中学校間の頻繁な交流が可能になり、9年間を見通した支援や指導が可能になります。また、通常の学級の児童生徒や地域の方々との交流を深め、より一層社会性を身につけられるようにしていきたいと考えています。

(Q) 市内の他の小規模校も統合するのか

(A) 本市の教育アクションプランでは、「地域とともにある学校づくり」を大きな柱の一つとしています。そのため、必ずしも小規模校を統合するということは考えておりません。適正規模・適正配置については、地域の実情などを充分踏まえるとともに、こういった教育効果が得られるかも勘案しながら、検討していきたいと考えています。

(Q) 今後の少子化により、児童生徒数が減少しないか心配である

(A) 今後さらなる少子化の進行により、児童生徒数が減少することも考えられますが、まちの魅力を発信して、若い世代が住みたくなるまち「せと」を目指してまいります。

5 立地

(Q) どうして小中一貫校を東公園に建設するのか

(A) にじの丘学園の立地については、数か所の候補地を比較検討する中で、5地区のほぼ中央に位置し、誰もが通いやすく、また、子どもたちの教育環境を充実することができる場所として、東公園の敷地を活用することが最善と考えました。祖東中学校については、令和2年3月までこれまで通り生徒の安全に注意し学校運営を行います。

(Q) 本山中・道泉小の場所で実現すれば良いのではないか

(A) 現在の本山中・道泉小での場所についても検討したものの、立地的にも偏りが大きく、また、本山中が借地であることから、困難であると判断しました。また、子どもたちの教育環境として、適正規模を確保すべきであり、小中一貫校を2校にすることは考えていません。



6 通学（バス）

（Q）新しい学校への通学路の安全確保はどうなるのか

（A）通学路や通学時の安全確保は、最優先課題であると考えています。通学路の危険箇所などを把握し、出来る限り安全対策を講じます。また、通学時の見守りについても、地域の皆様のご協力もいただきながら、児童・生徒の安全安心に取り組んでまいります。IC タグを利用した見守りシステムの導入も検討しています。

（Q）徒歩通学が困難となる児童生徒の通学はどうなるのか

（A）通学については、基本的には徒歩通学となりますが、状況に応じて路線バスを利用させていただくこととしております。なお、利用に際しては、あらかじめ事前に利用の有無についての調査をさせていただき、運行協力金として、月500円（年額6,000円）をご負担いただきます。また、地域の皆様のご協力もいただきながら人員配置をし、安全にバスの乗降ができるようにしてまいりたいと考えております。

（Q）校区外通学はできないのか

（A）校区外通学とは、保護者の申請により、にじの丘学園学校区以外の学校に入学・転入学することができる制度です。学校の移転・統合により就学先が変更した場合、かつ、移転・統合した学校と、自宅から最も近接する校区外学校を比べ、通学距離が概ね2km以上差がある場合、教育委員会が個別対応させていただきます。

7 子どもたちや保護者への配慮

（Q）今、学校に通っている子どもたちに配慮してほしい

（A）今後も引き続き、合同授業や合同行事など様々な活動を通して、各学校の児童生徒同士が触れ合う機会を増やし、適切な教育環境の整備などに努めていきたいと考えています。

（Q）将来、小中一貫校に通学する未就学児の保護者の意見を聞いてほしい

（A）平成28年度、5地区にお住まいの未就学児の保護者に向けた意見交換会やアンケート調査などを行いました。平成29年度は、せとっ子ファミリー交流館やパーティセと、また、就学時健診などで個別相談会を開催しました。こうした機会を通じ、未就学児の保護者のみなさまの心配ごとや不安の解消に努めております。なお、教育委員会では随時相談を伺っております。お気軽にお尋ねください。

8 地域とともにある学校づくり

(Q) 地域と学校の連携はどうなるのか

(A) 今回の適正配置で地域に学校がなくなるからといって、地域と学校の連携や協働が弱まることであってはならず、逆に、地域範囲が広がることにより、子どもたちがそれぞれの地域に根づいた多様な文化に触れ、より一層の連携や協働が期待できると考えています。そのため、にじの丘学園には、交流スペースや地域活動室を配置し、「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。

(Q) 適正規模・適正配置により、地域との関わりが少なくなるのでは

(A) にじの丘学園では、様々な地域の力を生かした教育活動に取り組んでいます。また、学校跡地においても、放課後や休日を活用した子どもたちと地域が関わり合う方策などについて、地域の方々とともに検討していきたいと考えています。

(Q) コミュニティ・スクールになると聞いたが

(A) 保護者・地域住民等が学校と協働することにより、子どもたちの教育の当事者となり、地域ぐるみで効果的に子どもたちを育む体制を構築するためにコミュニティ・スクール制度を導入し、「地域とともにある学校づくり」を推進していきます。

(Q) コミュニティ・スクールに関するスケジュールはどのようなものか

(A) 令和元年6月に「にじの丘学園コミュニティ・スクール設置準備委員会」を設置しました。今後も適宜開催し、令和2年4月の開校とともにコミュニティ・スクール制度を導入できるよう取り組んでいます。

(Q) 適正規模・適正配置は、まちづくりと連動させなければならないのでは

(A) 第6次瀬戸市総合計画との整合性はもちろんのこと、本市の都市計画やまちづくりとの関わりは密接であると考えています。今後は、魅力ある学校づくりを推進するとともに、市全体の共通課題として、本市のまちづくりを推進していきたいと考えています。

(Q) これまでの地域の取組や地域文化を継承する必要があるのでは

(A) これまでも、対象校では地域の方々との関わり、それぞれの地域文化や歴史を生かした学習活動などを行ってきました。にじの丘学園においても、郷土学習や地域文化を継承する行事などを行っていききたいと考えています。

9 安心して安全な学校づくり

(Q) 学校は、安心して安全な教育環境でなければならないのでは

(A) にじの丘学園は、災害に強く、子どもたちや地域の方々にとって安全な施設であることはもちろんのこと、不審者や迷惑行為などに対する防犯対策などにも努め、安心して安全な教育環境を整備します。



10 隣接学校選択制度

(Q) 隣接学校選択制度は、具体的にどうなるのか

(A) 隣接学校選択制度は令和元年度末をもって廃止とし、その後は、制度開始前から学校選択が可能だった区域を中心とした特定区域における校区外通学制度に移行します。ただし、制度廃止後も、隣接学校選択制度により校区外の小学校に在籍している児童が、中学校に進学する時や、兄弟が現在隣接学校選択制度を利用中で、かつ翌年度も当該校に在学中の場合に限り、その弟妹である新入学生については、経過措置として引き続き、同校の選択を可能とします。

11 学校跡地利活用

(Q) 小学校の跡地はどう利活用するのか

(A) 小学校統合後の跡地利活用につきましては、「令和2年4月1日以降も機能を維持するための利用(暫定利用)」と「将来のまちづくりにつながる新たな活用(将来活用)」の2つの段階に分けて整理し、具体的な案をお示ししたうえで、本市の現状と課題を共有しながら、各地区協議会において検討を踏まえて、市として決定をしております。

12 情報公開

(Q) この計画に関する資料などについての詳しい情報を教えてほしい

(A) この計画に関する資料などについては、順次、市ホームページや広報などで公開し、情報をお知らせしていきたいと考えています。



(Q) 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会やアンケート調査結果などを知りたい

(A) 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会（平成 29 年度から）及び瀬戸市小中一貫校施設整備委員会（平成 28 年度）の開催状況やアンケート調査結果など、小中一貫校に係る様々な取組状況や情報などについては、市ホームページでお知らせしています。また、「広報せと」や、「にじの丘だより」なども活用しながら、市民のみなさまに周知を図っていきたいと考えています。

13 今後の進め方

(Q) 今後、PTA や地域住民との合意形成はどのように行われるのか

(A) 各地区における地区協議会において、にじの丘学園に関することをはじめ、学校跡地の利活用に関することなどについても協議を重ねています。こうした場において、教育をはじめ、子育て、まちづくり、市民協働、防災など、様々な観点から、協議することにより、市民のみなさまのご理解を深めていただきたいと考えています。

また、瀬戸市小中一貫校開校準備委員会を開催し、地域連携や地域協働の視点からの様々なご意見やご提案をいただきながら、地域とともにある学校づくりを目指しています。

(Q) 開校までのスケジュールはどのようになっているのか

(A) 平成 29 年度に学校施設の設計業務が終了しました。平成 30 年度は 6 月から造成工事、10 月から校舎建築工事などを行い、令和 2 年 1 月末に校舎が完成する予定です。地域の皆様へ新しい校舎をご覧いただく機会を設けるため、準備を進めてまいります。



令和2年4月に開校する「にじの丘学園」外観イメージ

今後も、三つの基本理念の実現を目指し、「自ら考え、学び、生き抜く力」を育み、子どもたちにとって、より良い教育環境づくりを推進していきます。

「第2次瀬戸市教育アクションプラン（瀬戸市教育振興基本計画）」

瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」
瀬戸のすべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」
瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」